

第 28 回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2016. 4. 28 空田さやか

『持続性選択的 DPP-4 阻害薬 マリゼブ錠』

MSD(株) 山田 洋明さん

場所：コンパス薬局藤沢

参加者：

沢先生、内科職員さん、松下さゆり、熊山ともみ、藤澤まどか、大森彩可、空田さやか

2 型糖尿病に対しては近年、DPP-4 阻害薬や GLP-1 受容体作動薬、選択的 SGLT-2 阻害薬など、作用機序が異なる薬剤が登場して広く使用されている。糖尿病治療においては、血糖コントロールのため長期にわたる治療継続が必要である。しかし薬の飲み忘れや、低血糖・体重増加といった副作用発現などによる服薬コンプライアンスの低下が大きな問題となっていた。

オマリグリプチン（マリゼブ錠）は、今年 5 月に発売されたトレラグリプチン（商品名ザファテック）に次ぐ、2 番目の週 1 回投与の持続性選択的 DPP-4 阻害薬である。患者選好度調査によると、“糖尿病治療をこれから始める薬剤未使用の患者”“40 歳未満の患者”には週 1 回投与のニーズがある。

〈効能・効果〉

2 型糖尿病

〈用法・用量〉

1 週間に 1 回経口投与

※腎機能低下（eGFR<30mL/min/1.73m²）時には週 1 回 12.5mg を目安に調節する

〈飲み忘れについて〉

マリゼブは体内循環を繰り返すため、飲み忘れても気づいた時点で服用すればそこまです大きな変化はないとのこと。次回服用日前日まで服用可能。

〈副作用〉

低血糖（1.5%）、便秘（0.7%）

〈特徴〉

・ DPP-4 阻害薬であるので、低血糖や体重増加が起こりにくいので週 1 回投与が可能

- ・ ジャヌビアの開発グループが本剤の開発を手がけた
- ・ ジャヌビアとの比較において血糖降下作用における非劣性はみられなかった
- ・ 腎障害や肝障害患者への禁忌はない
- ・ 主に腎排泄
- ・ 肝臓での代謝をほとんど受けず、さらに腎臓での受動的な再吸収機構により体内循環を繰り返すことで、週1回投与が可能
- ・ 腎CCrが38ml/minととても低いので体内に長くとどまる（1日1回投与の薬剤は90-125ml/minのものが多い）

〈考察〉

週1回服用タイプの糖尿病治療薬は今まで浸透している薬ではないので、患者さんの理解が必要になると考えられる。お薬の服用回数が減ることにより精神的な負担が減る人もいれば、逆に普段服用しないことにより病識が薄れてしまう人もいるとおおいに考えられる。骨粗鬆症の週1回服用のリセドロン酸と同じく、薬局で日付の記入などしっかり管理を行っていく必要がある。

〈Q & A〉

Q：ザファテックとの違いは？

A：膜透過性が高く、体に広く分布するため血中濃度が比較的一定になり著しいピークが現れないため副作用も少ないと考えられている。